

令和 7 年 6 月 2 5 日

阿賀野市議会議長 大 滝 勝 様

総務文教常任委員会委員長 天 野 美三男

所 管 事 務 調 査 報 告 書

本委員会は、令和 7 年第 3 回議会定例会において議決を経た、閉会中の所管事務調査を下記のとおり行ったので、会議規則第 1 1 0 条の規定により報告します。

記

- 1 調査事項 不登校の現状について
- 2 調査期日 令和 7 年 6 月 2 5 日（水）午前 1 0 時 0 0 分
- 3 調査経過

令和 7 年 6 月 25 日、小泉教育長、保科総務部長、五十嵐学校教育課長及び担当職員の出席を求めて委員会を開催し、調査事項について担当課から説明を受け、質疑・意見集約を行いました。

4 調査結果

不登校の定義

何らかの要因により、登校しない、したくてもできない状況にあるため年間 30 日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたもの。

阿賀野市における不登児童生徒の推移

小学生は、令和 3 年度を境に急激に増え、平成 28 年度と令和 6 年度を比較すると、6.75 倍と大幅に増えている。

中学生は、令和 3 年度まで 40 人程度で推移していたが、小学校で不登校となった児童が中学校に入学し、その後も不登校が続いているため、令和 6 年度から急激に増えている。

不登校が増えている背景

コロナ禍での一斉休校などで毎日学校に行くことが当たり前ではなくなった。また、保護者の意識も大きく変化し、無理に学校に行かなくてもよいと考える保護者が増えている。

児童生徒の実態について

不登校児童生徒について把握した事実として、以下のものが多い。

- ・生活リズムの不調
- ・いじめを除く友人関係のトラブル
- ・学業不振
- ・やる気が出ない
- ・障がい起因する特別な教育的支援の求めや相談

阿賀野市としての不登校対策

当市の不登校対策として、学校に登校しにくい児童生徒を対象とした阿賀野市教育支援センター「白鳥ルーム」開設や、教室に入りにくい児童生徒が利用する場としての校内教育支援センター開設などに取り組んでいる。

阿賀野市の不登校の課題

不登校に対応した校内対策会議を開催することが望ましいが、時間的な問題で開催できなかったり、アセスメントの視点が十分でない事例がある。また、外部機関との連携が十分でない事例もある。

今後の重点方策

不登校児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思ったときに学べる環境を整えていき、心の小さなＳＯＳを見逃さず、チーム学校で支援をしていく。

【意見集約】

教育委員会から阿賀野市児童生徒の不登校の現状と対策、今後の対策方針をお聞かせいただきました。

児童生徒の不登校は、全国と同様、阿賀野市でもコロナ禍による臨時休校や教育活動の制限によって、年々増加傾向にあります。

特に、中学校で増加していることは、小学校で不登校になった児童が中学校に入学しても不登校が継続しているとのことです。

不登校の事情は、コロナ禍により家庭内での居心地の良さを感じたことが大きいようですが、児童生徒は学校生活に色々悩み・不満がある中で、「学習が分からない」「人間関係の困難さ」が主な要因とのことです。

阿賀野市独自の不登校対策については、「早期相談システムの対策」「職員の不登校対応研修」、それに市内 10 小中学校にそれぞれ校内教育支援センターを開設し、学習支援教員を配置して、色々な悩みを抱える児童生徒に寄り添った相談・助言対応を行っており、児童生徒の居場所となっています。また、「子どもとともに 1・2・3 運動」として、各担任教員が 3 日欠席が続いた児童生徒の家庭訪問を行い、悩みを聞きながら懇切丁寧に登校へと声掛けを行っているとのことです。

一番の対策としては、学校に登校しにくい児童生徒を対象に開設している阿賀野市教育支援センター「白鳥ルーム」に指導員 3 人を配置し、利用する児童生徒に対し親身になって接しており、ここから高校に進学するといった素晴らしい成果を上げているとのことです。

この様な現状や対策を聞かせていただき常任委員会としては、多様化している不登校児童生徒の困り感解決のために、保護者、チーム学校、外部専門機関が連携して支援に当たっていくことを期待します。そして、教育現場において激務となっている教員の精神的・肉体的負担を軽減するためにも、国並びに県より早急なる教員の増員を要望していくことが重要であると意見集約されました。

以上、総務文教常任委員会の所管事務調査の委員長報告といたします。